

## 株式会社囲碁将棋チャンネル 第3回 放送番組審議会（議事概要）

第3回の放送番組審議会は、平成26年2月19日（水）、私学会館 アルカディア市ヶ谷（7F 白根）にて開催された。

会議では、数分にまとめた番組VTRを上映し、計4番組について審議を行った。

### ▼出席委員

---

委員長	岡田 裕介	東映株式会社 代表取締役社長
	野田 慶人	日本大学 芸術学部 学部長
	足立 盛二郎	ゆうちょ銀行取締役兼代表執行役会長・日本郵政取締役
	兵頭 俊夫	大学共同利用機関法人 高エネルギー加速器研究機構 物質構造化学研究所特別教授
	金子 光男	明治大学附属明治高等学校・中学校 校長
	中村 幸雄	株式会社損保ジャパン 顧問
	音 好宏	上智大学 文学部 新聞学科 教授
	関根 紀代子	将棋女流棋士／女流棋士会前会長
	小川 誠子	囲碁棋士／日本棋院理事

委員総数：9名 出席委員数：9名

### ▼事務局側出席者

---

岡本 光正	代表取締役社長
勝股 信昭	取締役統括部長
梅澤 秀行	業務部部长
遠藤 健	業務部課長
板原 慎也	業務部係長
赤神 夏織	業務部

### ▼（囲碁）「中国竜星戦」について

---

- （解説者の）辛辣なコメントが人気の番組です。（事務局）
- 穏健なもの結構だが、日本でもこれくらいの辛口解説を取り入れてみたらどうか。（岡田委員長）
- 日本では男性が解説、女性が聞き手と、役割分担が非常にハッキリしている。女性が解説しても良いと思う。（兵頭委員）
- 日本では、こういったハッキリとした物言いは避けられがち。対局番組は、解説次第で番

組の面白さがずいぶん左右されるところがある。NHKの番組スタイルを引き継いだまま保守的な部分があるので、女性が解説するなど、もっと様々なことにチャレンジしてほしい。そのことで批判があっても良いと思う。(岡田委員長)

- この番組で付与されている字幕はどのように制作しているのか。本来の表現や言い方は、忠実に字幕になっているのか。(兵頭委員)
  - ↳日本語のわかる中国人プロ棋士が翻訳を行ってる。多少ニュアンスが異なることもある。(事務局)
- 国が違うのだから、文化も違う。すべて日本風に置き換えてしまったらつまらなくなる。違う部分はそのまま、番組の面白さを追求すべき。(野田委員)

#### ▼対局番組における手番表記に関して

---

- 非常に良いと思う。(足立委員)
- わかりやすくなった。(小川委員)

#### ▼(将棋)「神武以来の天才～加藤一二三～」について

---

- とても楽しい番組。(小川委員)
- 前回の審議会で、対談番組やトーク番組の制作を検討中としていたが、いい流れだと思う。桐谷広人さんも面白いのでは。(中村委員)
- 棋士の人間的な魅力を伝える番組は、幅が広がって良い。(足立委員)
- このところ、番組制作に対する様々なアプローチが出てきて良いと思う。その上での一言ですが、個性的な人ばかりを扱えば確かに面白い番組が作れる。だがそこでもう一步、番組が逆に魅力を引き出したり、プロデュースしていく必要がある。棋士本人は、自分のアピールポイントや個性についてよくわかっていない。それを視聴者の興味を呼び起こす形で引き出していくのはテレビの役割。加藤一二三さんや桐谷広人さんは、セルフプロデュースができています。また、引退している人ではなく現役棋士の魅力を掘り下げることが大切。番組としては、レギュラーではなくスペシャル番組という形でいいので、継続して取り組んでほしい。(岡田委員長)
- この番組は、ある意味で「あそび」(バラエティ)の部分がある番組。番組づくりの際はどんどん多様性を持たせて良い。たとえばカメラ位置をローアングルにして棋士の表情をクローズアップするなど、一般的な番組とは一線を画する撮り方などにチャレンジしてもいいのでは。(音委員)
  - ↳将棋・囲碁に関しては、撮りようがない部分もある。他に無いカメラアングルで撮ったとしても、一般的なアングルに慣れている視聴者にとって新機軸にはならない。一回限りなら目新しく映るかもしれないが、なかなか難しい。(岡田委員長)
  - ↳ほとんどの番組を同じスタジオで収録しているため、違う番組であるにも関わらず似てしまっているところがある。番組によってセットを変えるなど、予算の関係で難しいが、やっていく必要があると感じている。(事務局)
- 人にスポットを当てるのであれば、対局番組とは違うテイストにするべき。解説など要らな

いわけだし、スタジオにこだわる必要もない。その対象となる人物を追いかけて取材すれば良い。(野田委員)

#### ▼ (囲碁)「第37回 全国高校囲碁選手権」について

---

- 例年の番組構成に、出場高校のロケ映像を追加しました。(事務局)
- 大学での囲碁の授業も盛んになり、囲碁の裾野は着々と広がっている。大学の方が、授業のカリキュラムがかなり自由なので、取り入れることは容易。中学・高校は割りとどこも授業がガッチリと組まれているので、自由な校風の学校とそうでない学校の差が激しい。(兵頭委員)
- 囲碁に比べると、将棋はまだまだと感じる。囲碁では早慶戦があるが、棋士の組織力があると感じる。将棋も始めようとしているが、囲碁界に学ぶべきところがある。(中村委員)
- HP を見たところ、小学生を対象としたスタジオ見学会などもやっているようで、子どもへの囲碁普及に尽力されているようですが。(中村委員)
  - ↳ 昨日募集を開始しました。(事務局)

#### 【その他】

- NHK 杯村山聖特集の編成、非常に評価している。面白いコンテンツを、どのような形でチャンネルが視聴者に提供できるのかがハッキリしていれば、他からコンテンツを購入するのは良い。(岡田委員長)
- 「自戦実況～山下敬吾 vs 謝 依旻～」は大変面白かった。(岡田委員長)
  - ↳ 今後、将棋の方も予定しております。(事務局)
- 時に、対局よりも解説が面白いことがある。逆に解説次第でひどくつまらなくなってしまうこともあるので、解説は慎重に選ぶべき。素人が解説しても良い。思い切って色々なことをやってほしい。やってみてダメだったら引っ込めれば良い。(岡田委員長)
- 将棋棋士と○○、囲碁棋士と○○といった、棋士と異領域のプロフェッショナルの対談などが見てみたい。例えば、羽生さんと競馬騎手など。(金子委員)

(以上文中:敬称略)

囲碁・将棋チャンネルでは番組審議会委員のご意見を真摯に受け止め、今後の番組内容の向上に活かしていく所存です。

以上